

論文審査の結果の要旨

報告番号	博（経）甲第 17 号	氏名	張 崢光
学位審査委員	主査	丸 山 幸 宏	
	副査	セリヤ・L・ウマリ	
	副査	村 田 省 三	
<p>題名： 中国における農村貸付の分析</p> <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>現代の中国が抱える問題であり、2003年の中国共産党中央委員会においても指摘されたところの、いわゆる三農問題（農村、農業、農民の問題）にたいして、本論文は、以下のような論文構成で、この問題にたいするひとつの分析視点を与えようとしている。特に中心的な分析は、第二章、第三章および第四章である。</p> <p>序 章</p> <p>第一章 中国農村貸付の現状</p> <p>第二章 農村貸付のゲーム分析 —農村と銀行の関係—</p> <p>第三章 中国の農村部における金融供需分析 —中国吉林省の調査を中心に—</p> <p>第四章 中国農村金融貸付における DEA 分析</p> <p>第五章 日本農村金融の発展と中国の比較分析</p> <p>第六章 結論と提言</p> <p>序章では、この三農問題が発生するにいたった経緯や、それに関する先行研究に言及して、農村に対する融資問題があること、そして、農民所得水準の低さを問題視する論点からは、それが三農問題の中心的な問題であると考えられる論拠を、示そうとしている。端的に言えば、現代中国の急速な経済発展が、農村の融資需要を満足させることなく進行しており、そのことが農民所得の増大を阻んでいるという見方である。そして、第一章では、まず本論文での分析の第1段階として、農村金融と農民所得との間に相関関係（グランジェ因果関係）があるとい</p>			

うことを、多くの先行研究を概説しながら、結論付けている。また同時に、この結論は、ごく一部の研究者による異論があることを認めているのであるが、この一部の異論は中国を対象とするものではないことも示して、この性質を想定することが先行研究からみて合理性をもつことを論じている。この性質は、本論文における計量的分析の基本的な仮定になるものである。そして、この状況下では、DEA 分析が有効であることが示されるのであるが、同時にまた、そこで分析の射程外となる可能性のあるものが存在することが論述されている。分析の射程外になるもののうち、重要なものは、情報の非対称性であるとされ、これは必ずしも中国に特有な問題ともいえないが、中国では特に重要な考慮要因になっているという認識から、非対称情報ゲームモデルによる理論分析が有効である理由を示そうとしている。第二章は、そのような視点から構成されたゲームモデルによる均衡戦略分析である。ここでは、不完全情報構造（低リスク農民と高リスク農民についての銀行の情報不足という非対称情報）を想定した農民と銀行の 2 人ゲームが設定され、この不完全情報ゲームの混合戦略均衡が、決定的に経済効率性（パレート効率性）を損ねる可能性があることを示している。繰り返しゲームではないが、信念更新を伴う動学的な構造をもつモデル設定になっており、貸付担保があるケースと無いケースの各々について、ゲーム均衡を比較する分析手法によって、非対称情報が経済非効率性をもたらすことを論証しようとしている。第三章では、供給サイドからの問題解決を重視する中国共産党の政策の歴史的経緯を示しながら、これに対して、需要側の分析が決定的に不足しているという意識から、現地調査をも含めた分析結果を提示している。第二章の分析結果と重ねてみれば、第五章で展開されるころの、日本の農協が果たす役割を積極的に評価する見方の萌芽を、事実上、ここに見て取ることができる。続く第四章では、農村への貸付が農業経済を促進することができるという想定のもとで、それに関する効率性を、DEA 分析手法によって考察している。そこでは、入力出力指標として何が適切かについての先行研究を検討する中で、一人当たり平均農業 GDP 等の指標が適切という見解が示されている。ただし、中国の特殊性から、また、DEA モデル設定の影響から、特異な経営形態が好成績と判断されやすい効率性分析となることの懸念から、現在、国際比較等において既に使われている Malmquist 効率指数（距離関数によって定義される）による分析としている。そこでは、結果的に、各省間での効率性の差異が大きいことを示した。一方、銀行側に対しては、Inverted DEA モデルによって、銀行貸付利率等を指標として貸付に関する効率性を導出しようとしている。この分析は、積極的な効率性というよりも決定的な非効率性があるかどうかを計量しようという視点である。決定的な非効率性が認められないという結論を得ている。第五章は、計量的な分析ではないが、日本の農村に対する金融機構が、低利の融資を長期的に実現できていることを指摘して、特に第二章および第四章における分析視点から、その優位性を主張するものである。いわゆる日本の農協が、第二章で指摘されたところの非対称情報問題の解決にたいして有効な組織であることも示そうとしている。第六章では、前章までの分析が簡潔に再述されて、また、残された課題が記述されて、本論文が締めくくられている。

本論文の貢献として次の4点が認められる。中国の経済統計資料は未整備の部分が多く、とりわけ農業の経営状況はそうである。本論文では公表資料の不足を、理論値（推定値）で補い、また、現地調査をもおこなうことで、より正確なモデル設定の合理性根拠を求める研究姿勢が評価できる。第二の評価点としては、唯一のDEA分析モデルに依拠することなく、数種のDEAモデル解析を試みていることである。とりわけ、銀行効率に関して、Inverted DEAモデルを適用した分析を行っている点では、モデルそのものが新しいというだけでなく、その適用についても新規性があると思われる。第三に、DEAモデルによる農村金融効率性分析では、非対称情報構造がもたらす弊害を意識し、それをゲームモデル化することで、その本質的な意味を明示しようとしたことが高く評価できる。ゲームモデルの定式化の背景には、現地におけるアンケート調査が適切に反映されているものと見ることができる。中国における、この種の先行研究からみる限り、ゲーム理論分析の適用部分についても、新規性および独創性が認められる。なお、ここでいうゲーム理論適用をめぐっては、国際学会（シンガポールで開催、2014年11月）で報告されている。その他、第1章から第5章までの各章も、海外ジャーナル掲載論文（査読制）および国際学会報告論文（査読制）など、合計8本の論文（すべて単著）をもとに構成されており、第三者からの評価も受けていることなどから、博士論文としての評価には十分に対応できるものと考えられる。

以上から、本論文は、本研究科の博士学位論文の審査基準（独創性、新規性、貢献度、論証可能性、完成度）を満たすものと判断され、本学位審査委員会は全員一致で博士（経営学）の学位に値するものと判断する。